

スーパーやコンビニ、飲食店でも病院でもセルフレジが増えています。待ち時間が減って支払いは便利になり、衛生面も安心ですが、人に「ありがとう」を伝える場面はめっきり減りました。「ありがとう」は人の心に灯りをともす言葉。効率重視の場面でも、何気ないやり取りの中にある温度感を大事にしたいものですね。

緩いチーム体質



梅雨に入り、雨に濡れたアジサイの花がひととき鮮やかに咲き競っています。気温が上がらず肌寒い日もあれば、梅雨晴れの日には夏本番を思わせる強い日差しになる日もあります。体調管理はしっかり行い、鬱陶しいこの季節、気持ちだけは爽やかにまいりましょう。



今季こんなシーンがどれくらい見られるだろうか

さて、我らがカープ。

今年もセ・パ交流戦が終了した。交流戦を苦手とするカープ。5勝12敗1分の借金7。交流戦5勝は21年の3勝に次ぎ、球団ワースト2位タイとなった。上位をパリーグのチームに占領され、力の差を思い知らされる結果となった。

交流戦だけの話ではない。今のカープは試合に没頭できる状況ではない。

元カープの羽月が5月下旬にSNSで生配信した動画の内容が大きな波紋を呼んでいる。羽月は指定薬物エトミデートを使用したとして有罪判決を受けた。動画では自身を含めたカープの6選手がエトミデートを購入していたと告白。この発言に球団内で大きな衝撃が走っている。羽月の供述が事実だとしても、現行犯での所持、尿検査で陽性反応など物的証拠がない限り立件される可能性は極めて低いが、そのことが試合やチーム内の雰囲気に影響を及ぼさないとも限らない。更にチーム内でいじめのような事案もあったと証言。今のカープはどうなっているのか。

ある広島OBは、16年から球団史上初のリーグ3連覇を達成した当時と比べ、チーム体質が変化していったと指摘する。3連覇の時は良い意味でチームに緊張感があった。当時の緒方監督は選手から決して好かれている存在ではなかった。現役時代の新井監督とも距離があり、選手のミスに厳しかった。勝負に執着して細部にこだわり、戦う集団になったからこそ強かった。しかしその後佐々岡監督が就任すると、チームに緩さが目立つようになった。前後して主力選手だった丸・鈴木誠也がチームを去った影響もある。

新井監督になってからも違った意味での緩さが引き継がれている。19年以降の7年間で6度のBクラスと低迷が続き、黄金時代が過去の栄光となりつつある。新井監督就任4年目の今年も借金2以上積み重なり、下位に低迷している。スローガンに掲げているシャカリキさも全くない。再建への道は険しいが、チーム一丸となって巻き返すことこそが、ファンの信頼を取り戻す最良の手段であることは間違いない。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。